夢洲第２期区域のまちづくりの方向性

資料３

■　目的

・大阪府市では、平成29 年８月に「夢洲まちづくり構想」を、令和元年12月に「夢洲まちづくり基本方針」を策定し、夢洲における国際観光拠点の形成に向けたまちづくりを進めています。
・2025年大阪・関西万博開催の跡地となる夢洲第２期区域については、万博後速やかに活用できるよう、民間事業者の皆さまから広くご意見・ご提案をいただくため、マーケット・サウンディングを実施します。
・夢洲第２期区域のまちづくりの方向性は、サウンディングの実施に先立ち、これまでのまちづくり方針を、現在のまちづくりの進捗にあわせて再整理するとともに、サウンディングの前提条件をお示しすることで、民間事業者の皆さまの参画意欲を高めるとともに、具体的な検討を進めていただけるよう作成したものです。

■　夢洲まちづくりの考え方

国際観光拠点「夢洲」のコンセプト　SMART RESORT CITY　夢と創造に出会える未来都市

○夢洲第２期区域のゾーニングの考え方（観光・産業ゾーン）
『万博の理念を継承したまちづくり』

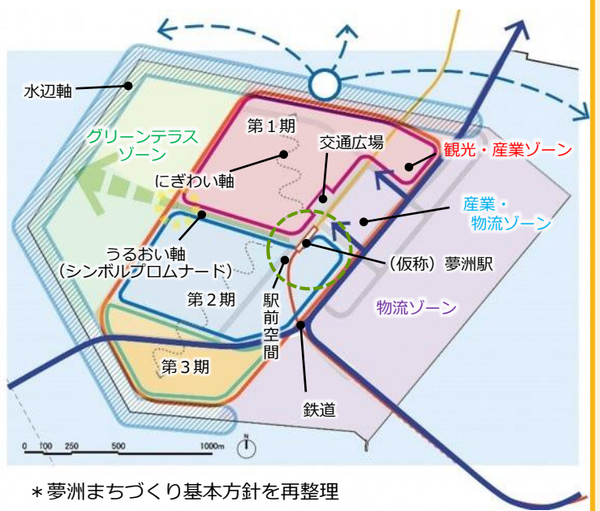
・国際観光拠点にふさわしい大規模で、統一されたコンセプトに基づくエンターテイメント機能やレクリエーション機能の導入を図ることで国際観光拠点の強化及び更なる集客を図る。
・第１期の導入機能との連続性を確保するとともに、大阪が強みを有する産業（健康・医療産業など）や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケースや最先端技術の実践・実証の取り組みや、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用した様々なプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取り組みを展開する。
・整備にあたっては、万博計画と跡地計画の整合を図り、相互に効率的な整備を行う。

○空間形成の考え方
都心部にはない非日常感と圧倒的なみどりの空間

○まちの骨格の考え方
うるおい軸：シンボルプロムナード
水辺軸：水都大阪にふさわしい質の高い水辺環境
にぎわい軸：上質なにぎわいのある歩行者空間

○まちの連携の考え方
第１期エリアと第２期エリアの空間的な連携
多様な交流型コミュニティの実現

○まちのインフラの考え方
多様な交通アクセス・快適な移動交通による利便性向上
土地利用の柔軟性を確保する外周道路
安全・安心なライフラインの構築
夢洲の玄関口・にぎわいの拠点となる駅前空間



＊夢洲まちづくり基本方針を再整理

■　夢洲第2期区域のまちづくりの方向性（マーケット・サウンディングの前提条件）

①夢洲第2期開発予定区域
・大阪・関西万博の敷地を考慮し、夢洲第2期開発区域を設定（大阪ヘルスケアパビリオン、（仮称）夢洲駅の一部敷地は除く）

②基盤整備（観光外周道路形状等）
・夢洲第１期開発と整合する観光外周道路を想定

③周辺開発との連携
・大阪ヘルスケアパビリオンや（仮称）夢洲駅、夢洲第１期開発等の周辺開発と連携した、動線計画や土地利用計画を想定

④万博理念の継承
・万博の理念を継承するソフト・ハードレガシーの活用の提案を求める

⑤土地の取扱い
・土地の契約手法は売却または事業用定期借地を想定

⑥開発スケジュール
・夢洲第２期開発は万博開催後、早期の工事着手を想定

大阪ヘルスケアパビリオン

出所：2025年日本国際博覧会大阪パビリオン推進委員会

2025年大阪・関西万博

出所：2025年日本国際博覧会協会

（仮称）夢洲駅

出所：大阪港トランスポートシステム

図：夢洲第2期開発予定区域

■今後のスケジュール（想定）

・2022年12月　夢洲第2期区域のマーケット・サウンディング開始
　　マーケット・サウンディングの結果等を踏まえ、募集条件等を検討
・2023年度～　夢洲第2期開発事業者の募集開始
　　夢洲第2期開発事業者の決定
・2025年　2025年大阪・関西万博開催（4月13日– 10月13日）
・万博終了後　夢洲第２期区域　開発工事着手

2022年12月	2023年度～	2025年	万博終了後～
マーケット・サウンディング開始	開発事業者募集・決定	2025年 大阪・関西 万博開催 （4月～10月）	開発工事着手

夢洲まちづくりのイメージ

○ 第２期区域の土地利用の方針

▶万博の理念を継承したまちづくり

万博の理念を継承し、最先端の取り組みなどを進めるとともに、大規模なエンターテイメント・レクリエーション機能導入、第１期において創出されたにぎわいの継承などによりまちづくりを進めることで、第１期のまちづくりと合わせて国際観光拠点機能の更なる強化を図る。

《導入機能例》
・最先端技術・研究などの実験・実証、情報発信機能
・宿泊機能
・大規模エンタメ・レクリエーション機能　等

○ スマートなまちづくり

▶夢洲におけるスマートなまちづくりの方向性

・国際観光拠点機能の強化には、「観光客数の増加（競争力向上）」と「滞在期間の長期化（滞在型観光）」をめざす取り組みが重要である。
・夢洲においては、スーパーシティの取り組みを活用するなど、各街区と公共空間等が連携し、まち全体で
「安全・安心なまちの実現」
「円滑で利便性の高いサービスの提供」
「環境と共生した持続可能なまちの実現」　による
国際観光拠点機能の強化　をめざす。